令和6年度第1回御嵩町総合教育会議

日時:令和6年9月13日 11:00～

場所:御嵩町役場北庁舎3階 中会議室

出席者:

町長部局 渡辺町長、筒井副町長、各務総務部長、土谷総務課長、加藤行政管財係長

教育委員会部局 奥村教育長、田中教育委員、中瓦教育委員、山口教育委員、中島教育委員、高木教育参事、尾崎指導主事、高木指導主事、玉川学校教育係長

事務局 皆さまお揃いになりましたので、ただいまから令和6年度第1回御嵩町総合教育会議を開催いたします。はじめに渡辺幸伸町長から挨拶をお願いします。

渡辺町長 皆さんおはようございます。本年第1回目ということになりますけれども、例年2回程度、秋口と冬に開催しております。去年はたまたま就任ということもありましたので冬にありましたし、しばらくはコロナがありましたので、あまり開催ができていなかったですけれども、できればしっかりと開催していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

今日は議題として、中学生の服装の多様化がございますけれども、その他の案件も含めて時間は準備してございますので、そのあとになにかお話ししたいことがあれば、日頃感じていることなども議論できればと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

事務局 それでは本日の議題に移らせていただきます。御嵩町総合教育会議設置要綱第4条の規定により、以降の会議の運営につきましては、町長をお願いいたします。なお、本日の会議は12時の終了を予定しております。それでは、町長よろしく願いいたします。

渡辺町長 それでは要綱に基づいて議長を務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。その前に一つ言い忘れましたが、ご覧いただけたかと思いますが、伏見小学校の仮設の庁舎が出来上がりまして、いよいよ仮設庁舎の方で、引越し後の新学期を迎えることができました。今後とも色々ご迷惑をおかけしたりすることも

あると思いますが、よろしく願いをいたします。

それでは本日の議題になりますけれども、中学生の服装の多様化ということで、議論を行っていきたいと思います。事務局の方から説明をお願いします。

高木指導主事 議題について本日説明させていただきます。指導主事の高木と申します。よろしく願いいたします。座って失礼します。

それでは資料の順にお話させていただきます。まず服装の多様化についてですが、国の動向についてです。平成 27 年度に文科省からでました性同一性障害にかかわる児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等についての中に学校における支援の事例として自認する性別の制服、衣服や体操服の着用を認めるという文言が盛り込まれて、ここから高校を中心に制服の多様化が進んでおります。ここ数年間では、中学校のほうにもそういったものが波及している状況です。多様性のある制服といいますが、実際には二つに大きく分かれます。一つは男女兼用でどちらも同じもの着るといふものと、もう一つは、組み合わせの自由化というものです。実際には組み合わせの自由化を選択する自治体が多いそうです。今ここにある写真のように一番右の女子生徒がスラックスをはく、ブレザーを自由に選択できるという形になります。株式会社カンコウによる全国に対して行われた調査結果による実際の傾向についていくつかお話をさせていただきます。まず一つ目の調査結果については、調査の対象は中高生を子どもにもつ保護者の方 1,200 人に対して令和 2 年度に実施されたものです。ジェンダーレス制服として良いと思うスタイルはどれかというもので、半数以上回答として多かったものが一番上のスカート、スラックス、リボン、ネクタイなど自由に選択できるもの、もう一つが男女共通のデザイン、ブレザーを使用したものといったものが回答として多かったそうです。二つ目の調査は、全国の小中高の教員 1,800 人に対して令和 3 年度に実施されたものです。LGBTQ の児童生徒への服装の配慮として良いと思うスタイルとして、多かったのが女子生徒のスラックスの着用、二つ目が先ほどと同じで選択できるものや男女共通のデザインのブレザーという回答が大半を占めております。次の調査は、中高生 1,400 人を対象にして、令和 5 年度に実施されたものです。制服への配慮として良いと思うスタイルでやはり多いのが、自由な選択や女子生徒のスラックス、また三つ目として、カーディガンやベスト等が性別関係なく着用できるとして多く選択されております。四つ目の調査が、全国の中高の教員 1,400 人に対して、令和 5 年度に行われたものです。実際に学校に問い合わせることで、今全国的に女子生徒のスラックスが採用されて

いるかがこの調査によってわかります。大体7割程度の学校でスラックスが採用されているというのが今の状況にあります。この結果からですと、全国では7割を超える学校で女子生徒のスラックスの対応をしていることや、又は自由に選択できるスタイルを良いと感じていることがわかります。自分らしさや誰もが心地よく着ることができるものが制服として求められていることがわかります。実際に県内でも組み合わせの自由化を実施している市町村があります。大きく二つの市町村について挙げさせていただきます。別添資料1のカラー刷りの1ページ目をご覧ください。こちらは関市の広報に掲載されていたものをもってきたものです。関市では令和5年度から市内の全9の中学校で次のような対応を実施しています。スラックス、スカートの選択、ブレザーも男性女性というわけではなく、女性用に少しタイトなものも選べるようになっておりますし、ネクタイやリボンも選べるようになっています。実際関市では、学校に応じてデザインも違うところもあるようで、このような対応をしていることが確認できました。もう一つが安八町の例になります。朝日新聞の記事をご覧ください。安八町では町内に二つの中学校がありますが、その二つの中学校で実施されています。ここはポロシャツとニットセーターの組み合わせ。これは学校指定のもので、ワンポイントで校章が入っていると聞いている。またスラックスやスカートも選択できます。実際に今使っているものもそのまま使ってもいいということで、もしスラックスを選択する場合は、黒色という色の指定はありますが、購入する先は量販店でも構わないと聞いている。また安八町の実施について面白いと感じたのはポロシャツを体操服としても活用しているということで、白色だと汚れが目立つということで、白か紺を選択して使用できると聞いています。実際に現行の制服より2万円程安いというような情報があります。実際に可茂管内ではどうなのかということそれぞれの市町村の現状について確認しました。大きく採用している、採用の検討をしている、検討していないということで、三つに分けてお話しさせていただきます。採用している市町村として坂祝町は、令和4年度から学生服、セーラー服、ブレザー、スカート、スラックスから選択できるということ聞いています。ただブレザーとスラックスは、細いものではなく男女兼用で同じものを使っていると聞いています。実際に学校では、ブレザーを使っている生徒と学生服を使っている生徒が半数位半々に分かれているそうです。続いて七宗町についてです。七宗町は今後学校統合があるということで、それに向けて、ブレザー、スカート、スラックスを選択できるよう今決定しているそうです。実際にこの決定については、昨年度の夏頃からPTAの部会を中心に話を進めていき、このように決定したと聞いています。

続いて東白川村です。特に指定のものという対応ではないですけれども、女子生徒で学生服の下で黒いものを着用したいという生徒については、それを可ということで対応していると聞いています。ただし、今後義務教育学校の開校に向けて、制服の見直しは検討していく予定でいると聞いています。続いて可児市は昨年度より実施しているそうです。可児市は先ほどにもあった、ポロシャツを導入しています。可児市では始め一つの中学校でこのような話が挙がってきたということで、それが校長会の中で話をされて、校長会を中心に、実働は教頭会ですけれども、二年程の期間を経て、実施という形に進んでいったというふうに聞いております。実際近隣でも多くの市町村で採用していることがわかりました。次に検討している市町村についてです。川辺町は学校統合に向けて2030年までに制服を揃えていこうという計画があります。美濃加茂市も検討中ですが、富加町は美濃加茂市に準じて対応しています。昨年、私も美濃加茂市内の中学校に務めておりましたが、実際そのようなニーズがある生徒については、個別に対応していると聞いています。このような制服ですが、実際にどのような機会に着用しているかということ、大きくは儀式的な行事のなかで着用しています。また宿泊行事や学校で行われる期末テストや実力テスト、職場体験があります。町内では、共和中学校のみ衣替えの時期がありまして、11月から5月までは登校の際に制服を着用して登校していると聞いています。ほかの二つの中学校については、登校も全てジャージで対応しています。こういった制服を着用する教育的意義としては、やはり学校としての一体感であったり、●●中学校の生徒という自覚、意識を持たせることであったり、今後社会に出ていくということも考えると身だしなみを学ぶ機会として、やはり着用することは必要であると考えております。現在御嵩町では、向陽中学校で個別の配慮ということで、女子生徒1名対して対応していると聞いています。現在2年生の生徒ですけれども、昨年度中学1年生のときから、スカートをはくことに抵抗があったということで、学校のほうでシャツとスラックスを認めています。本来ですと、女子生徒はこのような町内で使用している制服を着用するのですが、上は男子と同じようなシャツ、下はスラックスを量販店等で購入してよいということで、そういったもので対応しています。向陽中学校では、その生徒が冬場に本来であれば厚手の制服を着て女子生徒は対応しますけれども、寒くなってくることを考えてブレザーやカーディガンの利用も考えていかなければいけないということで、学校独自で職員や保護者の方に向けて、このような制服についての勉強会を計画していると聞いています。今後そのことも含めて、校長会の方に話が挙がってくるのではないかと考えております。最後になります。教育委員会としては、

今後の方向性としまして、やはり多様性を認める制服を他の中学校で進めていくことについては検討していかなければならないと思っております。また、校長会、教頭会と連携を図るということ、そして、今使用している制服との費用比較等も含めて、必要なことの調査研究をする必要があると考えております。事務局からの説明は以上となります。ありがとうございます。

渡辺町長 ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、ご意見やご質問がありましたら、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

中島委員 視点が女子生徒がスラックスをはくというところについて、では男子生徒はスカートはかないのかという問題や意見もあると思いますが、そうすると男女統一してしまったほうがいいのではないかと私は思いました。

高木指導主事 選択という形ではなくて、皆が同じものを着るということですね。

田中委員 私は以前から違和感があって、動きやすくないし洗濯等もできないということで、中学生は特に身長や体形が変わりやすい時期なので同じものを多用するために男子生徒は大きいものを着ていて、とても不経済なのが制服だと考えていて、制服をそろそろ替えた方がいいという提案も何度かさせていただいたこともありました。制服は学校ごとで決めるものなのでということで、今までセーラー服と学生服が続いてきていますが、まわりがいろいろと対応し始めているなかで、御嵩町がこのままでいいわけではないだろうということで、議題にあげてほしいとお願いしたわけですが、制服があるなしというところから考えて、なしや私服でもいいのではないかとこの自治体があると聞いていますけれども、制服のメリットというのがこの中にもありましたけれども、毎朝何を着ていくか迷わなくてもよいそこで判断する力を使わなくてもよいということが私は制服の良いところだと思いますが、自分が思っている制服は安八町のポロシャツとカーディガンというのは洗濯ができて大きくなったら買い替えができるのであればとてもいいものではないかと資料を読んで思いました。それと、先日他市町村の学校訪問をさせていただいたときに体操服が白と紺と選べる学校でしたが、それを拝見させていただいて、白い体操服は下着が透けるので女子生徒が嫌がるというのもあって、紺を増やしましたという話を聞いてすごくいいなと思っていて、この資料でもポロシャツの白と紺を変えられるのはすごくいいなと思いました。それと今は白と紺という話をしておりましてけれども、先日郡上の高校で夏の制服をポロシャツにかえた学校のニュースがやっていて、それはもっとカラーのバリエーシ

ョンがあって、その中から選べるというのをニュースでみましたけれども、そういうのもあっていいなと思いました。やはり洗濯ができる、清潔でいる、買い替えられるというのができるものがいいと思いました。以上です。

中瓦委員

スラックスならスラックスで統一したほうがいいと意見をいただきましたが、たしかに男子生徒でもジェンダーレスの部分で自分が女性としての身だしなみをするという考えもあるので、そういう意味ではスラックスでいくというのは一つの解決策だと思いますが、スカート履きたいか履きたくないかといいますか今頃の中学生の認識があまりよくわからないですけれども、女の子でスカートを希望することもあるのではないかと思います。ジェンダーレスは自分が男性としての内面をもっているからスラックスを選択するという部分はもちろん女性ではないので選択はあってもいいと思う。たしかに男子生徒がスカートをはきたいというのはすごくハードルが高いので、そこは悩ましいと思うんですけれども、そこは少し検討する必要がありますと思います。それと、田中委員がおっしゃったとおり、なるべく扱いやすく、安価で費用的に負担が少ないものというのは選択肢としては大事なところではないかと思う。親が経済的負担を抑えたいと思うところは必要なことだと思う。ただ、移行期間をどれだけでもつかということも大事で今までのものを使っても可能であるということも大事で一気に進めることは難しいと思います。

山口委員

先ほど、高木先生の説明のなかで、制服を着る機会というのが儀式的なときに使うのが現状ということで、今二つ御嵩町の場合は儀式的に使う制服ということと、普段使っている体操服とジャージと。日頃、授業などはジャージで受けていると思いますが、非常に動きやすくて軽くてきつとの方が勉強もやりやすいと思いますし、となると今話題になっているのは儀式のときの制服ということかと思います。儀式のときに使うものも大事かと思いますが、先ほど話題に出ていた体操服の色や素材など、どちらかというところのほうを着る機会が多いので、生徒にとっては、重要になってくると思います。儀式のときに着るといふ制服もけじめをつけるというか厳かなときにはきちっとする服装にするのは社会に出たときも大事になってくるので中学校のときから経験することも必要になると思うので、そこはしっかりと議論しないといけないと思いますが、その中でスラックスとスカートでは、社会ではだいぶ前から女性がスラックスをはくのは一般的になっているので、むしろ遅いくらいではないか感じておりますので、ぜひ早く採用してあげたいと思います。話がまとまりませんでした。つまり制服という意味では平時のときの服装というのが一番大事になってくる気がしましたので、言わ

せていただきました。以上です。

渡辺町長 ありがとうございます。その他よろしいでしょうか。少し参考になればというとおかしいですけれども、去年就任して車座というものをやりました。いろいろな方々にご意見をお伺いするのですけれども、特に小学生や中学生の団体に聞く機会があって、そのときに何でも話してくださいと話したときに話していたことがありましたので、若干紹介させていただきます。これは伏見公民館であった自治会のほうですけれども、おそらく小学生がきたときがあったので小学生の発言だと思うのですけれども、中学校の制服はスカートとズボンが選べるブレザーにしてほしいという意見が一つ。それから上之郷中学校では、先ほどお話のありました通常時というのが主になると思いますけれども、服装を校則なしにしてほしい。制服なんて年に10回ほどしか着ないのにという意見。それからJLCに集まっている小学生や中学生に聞いたときは、これは共和中学校の生徒ですけれども、制服登校をなくしてほしい。これは先ほど話されていた11月から5月までの話かと思えますけれども。また、上之郷小学校6年生で、これは上之郷中学校にあがるということだと思えますけれども、男女関係なく中学校の制服スカートやズボンにできるようにしてほしいなど、このような意見が車座の中では出されてきたというご紹介ですけれども、これは逆に少しお聞きしたかったのですけれども、他の市町村で例えばポロシャツとかカーディガンというのを制服としているという学校もあるということでしょうか。

高木指導主事 そうです。

渡辺町長 そういう場合でも先ほど言われたように公式行事とか外に出ていくときもその格好ということですか。

高木指導主事 はい。そのとおりです。

渡辺町長 それを良しとしているということなんですね。あと聞きたかったのは共和中は通学時に制服ということは、普段のときはどこかで着替えているということですか。登校してから例えば体操服や指定のものに着替えて帰るときは自由となっているのでしょうか。

高木指導主事 帰りはそのまま体操服で下校していると聞いています。

渡辺町長 登校時の分がここは制服だと決まっているという理解でいいでしょうか。

田中委員 私の記憶は向陽中学校でも制服で登校して着替えていたんですけれども、コロナ禍で学校で着替えるのはあまりよくないということではなくなったというのが私の記憶です。それで体操服での登校が認め

られるようになったと思います。

渡辺町長 わかりました。あと分かればでいいんですが、今後どういう動きになってくるのかを確認したいのですが、去年バレーをしている団体の保護者の方から聞いた話では、来年から制服が自由になるという話が飛び交っていたので、もう決まっているものだと思っていました。

奥村教育長 向陽中学校の先ほどご紹介させていただいた動きですよ。そこが少し独り歩きをした関係で向陽中学校は来年から選択性が自由になるという話がでてきているということは聞いています。そこについては、しっかりと向陽中学校のほうからアナウンスをしていただいて、まずは個別での対応からスタートしておりますが、今後 PTA を交えながら勉強会をしつつ、制服について考えていきたいと思っているということをしかりと保護者の方にも地域のほうにもお伝えしてお願いしていこうというのはしています。今後、向陽中学校の動きが上之郷や共和中学校のほうに広まって行って、町内で教頭会か校長会が核になりながら PTA と連携しながら、勉強会などを行っていくような動きができてくるとよいと思っているところであります。

渡辺町長 町として統一という形ではなくて、あくまでも先ほど言われていた学校側ごとで、それぞればらばらであっても特に問題ないということでしょうか。

奥村教育長 できればそこは共通のもので行く方向を作っていければとは内々では思っています。先ほどお話の合った多様性のあるものや体操着についても同じようなタイミングで検討していき、御嵩町として選択制あるいはブレザー、ジャージはこういうもののでということができたらとは思っています。

中瓦委員 さきほどの話で出ていた通学のとくにどうするかも一つ考えていかなければいけない。制服を例えばポロシャツやスカートやスラックスなどを選択できますというのはいいと思いますが、通学はどうするのか。体操着を下はジャージにして、通学自体はそれでもいいよ。公式行事のときはスカートないしスラックスにしますよということもある程度決めて選択していかなければいけない。今も共和中と向陽中の違いもあるので、こういうふうにしなないといけないところもありますが、学校について体操服にかえないといけないのは煩雑ですし、場所の問題もあるので、できればそのまま通学できればと思います。

奥村教育長 きっと共和中学校は登校のときに制服をとというのに意義付けをさ

れていて、子どもたちのほうにもこういった意味があるから朝は制服で背筋を伸ばして学校に来ようという指導をされていると思います。そういったところは、学校ごとの方針であったり、向陽中学校がコロナを期に着替えるときに密になるということからジャージ登校になったところもあります。またジャージに関していえば、ジェンダーレスに関係なく子どもたちは抵抗感がスラックスやスカートに比べれば、先ほど中島委員が言われたように皆同じですので抵抗なく着用ができます。いろいろな意味で教育的意義がそこには付随してくると思いますので、そのようなところは、校長会であったり、それぞれの学校の方針であったりというところはしっかりと確認しながら検討していく必要があると思います。

山口委員 学校によって違うのはいいことだと思っていて、学校によって求めることが違うこともありますし。ただ、制服までばらばらにすると、管理とかいろいろな面で難しいが出てくると思います。

奥村教育長 業者との関係も別問題としてあります。

山口委員 例えばブレザーはユニクロでもなんでもいいですよとするのもいいと思いますけれども、それだと収拾がつかなくなってしまうので、ある程度一定のものとなると、同じものにならないとというのはわかりますが、その場その場で町で決めるよりは、例えば共和中学校のように合理的なことだと判断してやっているのはいいことだと思っていて、できればこのように変わるときは、先ほど町長も話されていましたが、生徒もいろいろな想いを持っているので、そういうものを考えさせる機会を与えて、与えられて文句をいうのではなくで自分たちでしっかりと考えた足跡を残してあげてほしいと思います。

中島委員 性の多様性を制服に反映させようとする、どうしても選んだ人は少数派になる。そうすると、異質なものに対する排除というものがどうしても子どもたちに芽生えてくるので、それを全体に防がないといけないと思っていて、今回の制服の導入というものも性の多様性であるとか、例えばファッションとか制服でおしゃれを楽しもうというような切り口をかえないといけないと思っています。

筒井副町長 去年まで教育委員会にいて、制服の話も聞いていた中で、思っていたのは先ほどの話で年間 10 回ほどしか使っていないのが現状です。そうすると新しいものにしたときに同じように年間 10 回なのかというのが一つ。今、登校時はジャージでもいいですよとすると皆ほとんどがジャージで登校しているので、今の現状が不人気ではないのかというのが一つ。ただ中島委員が言われるように人気がある

ものといえますか、登校のときにこれ着ていきたいねというものにするものがあるのかなと思うのが一つで、それでない、着せられている感が残ってしまうので、変えるのであればというのは少し考えてしまう。

田中委員 先ほどの学校で皆で話して決めていくというのはすごい理想論だと思うのですが、それだとなかなか話が進んでいかないというのがあると思う。町としては何年何月から新しいものにかえたいと思うので皆さんの意見を聞きたいと思うので順次準備していただくという道筋と締切の期限をある程度決めないと話がうやむやになってなかなか進まなくなってしまう。多分流利的には皆さんかえたいと思っている人が多いので、うやむやになってなくなってしまうということはないと思いますが、やはり町としてはこう思っているというメッセージは発信していただきたいと私は思っています。

渡辺町長 採用状況を見て検討していないとなってしまうということですね。

山口委員 そもそも今現場といえますか当人たちが困っているから全国的にもこうなっているということですよ。さきほどありました、だんだんと少数派に対する人権意識が高まってきて今対応してきてということがあったのと、さきほどの利便性というのがあると思いますが、実際に当事者たち不都合があるのであればということなら、それにこたえていかざるをえないと思います。先ほど中島委員が言われた男女のジェンダーの違いもありますし、今だと障がいということもあります。そういう人たちだけ違うことをやらせるというよりは全部が便利よくできるような方式をとる。あとは先ほど副町長が言われていましたが、体操服で登校すれば体育のときは着替えしなくてよいということですよ。そういう意味で非常に軽くて動きやすく便利であって、儀式のときは少し上着を準備するというだけでも良いと思い賛同させてもらった。

渡辺町長 なかなか一人一人思いがありますよね。

中瓦委員 共和中学校の制服登校は学校に着いたら全部着替えるのでしょうか。

中島委員 私の子どもが共和中学校だったんですが、男の子も女の子も体操服をまず着て、その上から学生服を着ています。女の子はズボン履いて裾をあげて出ないようにして学校行ったら脱ぐというかんじです。

中瓦委員 体育は毎時間ももちろんやっているわけではないし、普通の授業の

方が多いと思いますが、体育のときは確かに体操服じゃないと動けないですが、体育のときだけ着替えるという選択肢ではないんですか。自分はすごく昔の話ですが、自分たちは制服で行って体育のときだけ体操服に着替えてというような流れだったのが、なぜ授業を受けるのに体操服じゃないといけないのか

田中委員 町の学校は、体育のときしか体操服を着ません。

中瓦委員 なので、ジャージで授業を受けないといけないことのほうが私はすごい違和感があったので、別にもう少し着やすい制服であれば、それで1日過ごすのが負担ではなくて、こういうのが着たいと思うので1日過ごして、体育のときだけ体操服にかえればいいのかと思います。

渡辺町長 おっしゃるとおりです。例えば体育が終わった後の汗が付いた服で授業を受けるわけですよ。子どもたちを見ているとよくそういうのは見かけます。

中瓦委員 別に体育のときなら、一クラスずつなら着替える場所もあると思います。更衣室はありますよね。

山口委員 また高校になったら制服になってしまいますよね。

筒井副町長 高校生になるとジャージで登校なんて恥ずかしいとなる。

山口委員 高校だとジャージ登校は禁止的なかんじですよ。

筒井副町長 禁止かはちょっとわかりませんが。

田中委員 禁止というかそんな選択はないでしょう。

山口委員 制服が制服だから。中学校は体操服を準制服のような扱いにしたんですよね。なので御嵩町だとこれが普通みたいに、正規の制服になる。

筒井副町長 可児とか美濃加茂はどうなんでしょうか。

高木指導主事 美濃加茂は自分がいた学校は登下校も全てジャージなので基本子どもは制服を持ってこない。必要な行事があるときは制服で来ますけれど終始ジャージ生活でした。

奥村教育長 登下校は制服でした。帰りはジャージでした。

渡辺町長 これは個人的なところも含めて様々な意見がでるジャンルかと思います。あとは教育委員会として、どういう方向性で進めていくのか、あとはそれをどういうプロセスで進めていくのか。先ほど山口委員が言っていたみたいに子どもたちが自主的になにかを作り上げ

ていくのかというのも含めてプロセスをどうしていくのかは考えていかないといけない話かと思います。いつまでにとか何を期限にというのも田中委員が言われていたことも含めて、ばらばらでいいのか、町として統一感を持った方がいいのかというのも議論のひとつになるかもしれない。それで個々に出た意見は参考にしていただいとしたいと思いますけれども。それでは、今日の議題としてはこの辺りにしておきまして、次にその他というところで時間的にまだ 15 分程度ありますので、なにか気になることや次回以降こういうテーマをとということも含めてなにか気になること、気付くことがありましたら、ご意見いただければと思います。

中瓦委員

それぞれの学校の老朽化が学校訪問するとどこでもその話が出てくる状態で、耐震の部分は確かにいろいろ考えられていますが、老朽化に対して、今後学校の建設の部分のスケジュールとか考え方のようなものは、本来は伏見の小学校も今の形で改修ではなく、本当はあそこは建替えてあげないとスペース的なものとか行くと可哀そうだと思います。そういうことも考えてどういう風に御嵩町の中の小学校、中学校を、短期の話ではできないと思いますが、どのように考えて行かれるのかをお伺いしたいと思います。町長が町政を考えていかれる中でも公的なものをどういう風に考えているのかを聞きたいです。

渡辺町長

伏見小学校の大規模改造をするに当たって、新築か改修かを議論させていただいた中で、基本的に構造の部分が非常に良好に保たれているということも含めて、大規模改造でいこうという判断をさせていただいたと理解しています。他の学校についても老朽化の話がありました。立替か少し手を入れて長寿命というものになりますけれども、いったん大規模な改造をして、構造がしっかりしていればもたせたほうがトータルとするとコストは安くなります。修繕を機に、そもそも学校の規模感からいってどうなんだという話も出てくるかもしれません。これは非常に大きな話になってくるとは思いますけれども、統合であったり、或いは学校間でなくても小中の統合であったりということも含めて、施設とともにいろいろ検討していかないと来るときが来るのかという思いはしていますので、施設のほうは直前の修繕等も含めて見つつ、長期的な視野にたって考えないとはいって思っています。

山口委員

ちょっと関連で、傾向なところを言おうとしていたところ中瓦委員が話してくださったんですけれども、大規模な新築とかではなくて、どこの学校でも雨漏りが当たり前ですし、公共施設は雨漏りが当たり前という時代になっていて、小学校は雨漏りがどこでもある。

例えば、上之郷小学校では体育館のトイレの水道が壊れて水が出ません。避難所になったときに水がでないところが避難所にあるという可能性があって、なかなか予算があるわけではないので、対応していくのは難しいとは思いますが、雨漏りがどこにあるかもわからないので、難しいと分かったうえでの話ですが、やはり学校がそういう状態というのはあまり皆さんにとってよくないこと。それから厳しい意見が言われるわけです。例えば、新庁舎作るのに学校のもものは直せないのかということを使う人もいるので、今の御嵩町のような大規模なものを計画中だと、そういう風当たりはもっと強くなるので、なんとか学校の雨漏りなどは対応できると良いという意見です。

渡辺町長

さきほど車座の話をしてしまいましたが、必ず出ます。雨漏りもここが漏れていると部分修繕をすると、そこは直りますが、水道で別の場所が漏れるというような繰り返しになるので、どこかのタイミングで大規模な全面的にということになります。大変お金がかかるということで、たちごっこになるので、よく考えながらそれでも計画をもってやっていかないといけないと考えています。

田中委員

全然系統がちがいますが、さきほど制服のジェンダーレスという話をしておりましたが、授業を受ける側の知識の差もいろいろあると思いますけれども、同じ先生から受ける授業を30人が聞いて吸収していくのはやはり難しいと思うので、そういう先生が授業をすることにマッチする生徒とマッチできない生徒がいると思います。同じ箱のなかに入れて勉強をするというのはなかなか難しいというふうになってきていると思うので、勉強ができる子もできない子もそれは幸せではないと私は思っている。個々に授業を受けたくないわけではないけれども、じっくりこなしと生態的に思っている子はたくさんいる。先生にこんなこと分かって思っている子もいるし聞いてもわからないという子もいるので、先生の話聞いていないと授業を聞いていないというわけではなくて、先生の授業を聞いていなくても勉強したいと思っている子もたくさんいると思うので、そういう子のケアをしてほしいと常々考えています。先生の話聞いていなくて教科書の違うページをみているのはいけないことなのか、それは私はいけないことではないと思っていますけれども、そういうのをクラスから外してしまって特別学級に入れてしまおうとかではなくて、同じ授業を受けながらもきちんと授業をこなしなくても寛容できるというのを難しいですけれどもやれるといいなと漠然的に思っています。

渡辺町長

教育長そういうサポート体制の話はいかがでしょう。

奥村教育長　　今まさにこれまでも国も県も個に応じた指導という言葉が使われたり、今は個別最適な学びという言葉が独り歩きしているところもあるんですけども、やはりこれまでのそれは私たちも大事にしなければいけないと思って取り組んできたところでもあります。今、田中委員がお話されたように一人一人の子どもたちが自分の学びのペース、理解の進み具合であったりとかどういったことに対応していくか。人でいえば学習支援員を配置しておりますが、なかなかそれだけでは追いつかないというのもあります。これからは今も進んでいるのですが、タブレットをいかに活用していくかという新しい学習スタイルといいますか、タブレットを通じながら子どもたちが自分のペースで学んでいく。とくに算数とか数学というのはやればやるほど学習の差が広がっていく教科ですので、そういったことを授業者がしっかりと工夫しながら、うまく道具として活用しながら子ども一人一人に応じた学びができるような授業改善していきたい。高木主事がなんとかしないといけないという思いでおりますので、少しずつ授業改善を、教員の研修などを積み重ねてやっていきたいと思っております。

渡辺町長　　私一、二点ほど投げかけといいますか今後の話でもいいかと思っておりますけれども、今、中学校の指導をしているということもあって、部活動の地域移行というのがすごく気になっておりますが、トータルな話は、今スムーズに移行しようとしているのでその点はいいいんですけれども、これ全体的な流れの中で、部活動を学校側が今まで担ってきて、生徒育成のために必要あるいはその指導の部分が地域に移行されるというふうになるんですけれども、学校側の引き続きの関与の仕方ということと、今生徒側にたつと、部活動をやらなくてもいいという選択肢が一つ増えてきた関係で、せっかく町としての地域移行という選択肢を作って、いろいろな部活なんでもやれますよというふうになるんですけれども、そもそもその担うべく人がどんどん減っているとか全体のパイが減っているというのは切実なものとして感じていますので、われわれ指導している側の方は各パーツパーツでそれぞれの種目でやっているんですが、もっと大きな視点で部活動という部分というのはある意味成長のところでやっていたんだよとか、将来のために部活動何か入って体動かしてもいいんじゃないかというような導きのほうは学校側もしっかり、これは地域移行されたから地域で考えてというわけではなくてそういった広い意味での生徒育成という部分はお願したいなというのはこの場をかりて申し訳ないですが、それが一点。

もう一点は、町の事業にも絡んでくる話になるんですけれどもぜ

ひ学校側をお願いできたらいいなと思っていたのが、ふるさと教育
いっぱいやっていただいています、ぜひその中に御嵩町のいいと
ころ、魅力あるところ、特色というところもいっぱいあると思うの
で、生徒たちにそれを体験していただいたり、見ていただいたり、
触れていただいたりというところをそれぞれの地区でというところ
もございますので、こういったことをなんとなく進めていっていただ
けたらいいなと学校側についてみたりとかはあります。私も次に
校長会とかがあればその話もしようかと思っていますのですが、少し
そこに力を入れていきたいと思っていますが、まず、町民の方、人
であったりお子さんが町のことをよく知ってもらいたいという話と
ぜひいってもらって、その魅力が町外の人に伝えられるといいなと
いうふうに思っておりますので、今後ファンクラブ登録というの
も見据えて、そういうことをPRできたらいいなと思いますので、なに
かのきっかけでそういうのがインストールでもいいですし、なにか
体験学習でもいいですが、そういうので今も使っていますが、より
それを通して保護者が知るというのも含めて活用できたらいいなと
いうふうに思っていました。それは意見としてです。

渡辺町長

そのほかなにかありますでしょうか。よろしいですか。それでは、
本日用意いたしました案件につきましては全て終了しましたので会
議の閉会をしたいと思います。本日はありがとうございました。

12：00 閉会